

平成25年度ユースフォーラム採択文・提言文

私たち「平成25年度ユースフォーラム」参加者57名は、「ローバースカウト年代の活動の強化と必要な支援について -ジャンボリーの経験、RCJとの協働、自団・自地区・自県連での実践-」のテーマのもと、活発に議論を行いました。

以下の内容を採択し、提言します。

A. ユースができる世間へのスカウティングのPR

ボーイスカウトがどのような活動をしているか知らない人が多い現状がある。時代のニーズに沿った広報活動ができていないことが原因なのではないかと考えられる。ローバースカウト年代が考える、今の時代のニーズにあった広報活動を行うことで、ボーイスカウトの魅力を知ってもらい、ボーイスカウトの人口増加を目指す。

- 新しく今の時代に適したSNSなどのメディアを使用し、一般の人にも解りやすい広報を行う。
- 全国に向けたPR活動と、各地域に向けたPR活動を行う。

我々が考える広報の4つのメディアを以下に記す。

- プレゼンテーション（学校、講習会）
- インターネット（Facebook、Twitter、Blog等のSNS）
- ムービー（YouTube）
- フリーマガジン（コラム、全国のスカウトの紹介ページ、最新おすすめアウトドア商品の紹介、ボーイスカウトを始めて私に起きた変化の記事等）
- 日本各地のボーイスカウト情報をまとめたホームページを作成する。
- 日本連盟の広報委員会にローバースカウトを所属させることを提言する。
- 日本各地のボーイスカウト情報をまとめたホームページの作成の協力を要請する。

B. ローバースカウト活動を魅せるために

ベンチャー隊からローバー隊に上進する際、多くのスカウトが活動から離れる傾向がある。その理由として、ローバー隊の活動の魅力がベンチャー隊員にうまく伝わっていないことに加え、ローバースカウトとしての質が低下していることが考えられる。

- 「ちかい」と「おきて」を改めて意識し、ローバースカウトとして必要とされる技能を自分で研鑽し続けられることができるスカウトを増やす。
- ローバー主体の社会貢献を地域・団などで継続的に企画実行する。その成果を団のホームページや個人のSNSを通じて報告する。
- スカウト個人の活動を知ってもらうため、個人のローバースカウト活動の写真やムービーをアルバムやDVDにまとめ、各団で共有する。
- 各団、各地区、各連盟のローバースカウト活動の内容を網羅するデータベースを作成する。

C. 世界における日本のローバースカウト活動

日本のローバースカウト活動を活性化するため、そのひとつとしてスカウトの視野を世界にも広げることを提案する。

- 海外派遣の公式報告会を毎年実施する。また、報告会の内容を記録し、インターネット上で共有することで、全国のスカウトに配信する。
- 日本連盟に報告会の開催を提言する。開催期間としては、毎年行われる全国大会期間中が望ましい。
- RCJとして海外派遣の情報を蓄積し、全国のスカウトと共有する。
- 日本連盟に、これまで行われてきた海外派遣の情報の提供を提言する。
- 第23回世界スカウトジャンボリーに向けて海外スカウトとの交流プロジェクトを展開する。
- 日本連盟に、日本のスカウトと海外から来るスカウトが事前に交流できる場をインターネット上に設けることを提言する。

D. ニーズに応じたローバースカウト活動のあり方

自らのニーズに応じたローバースカウト活動を行いつつ、よりよき指導者となることを目指す。

- 後輩や指導者を対象にローバースカウト活動のPRの場を設け、ローバースカウト活動への理解を得る。
- 他隊への奉仕や研修等に参加し、指導者になるための準備をする。
- RCJおよび各県連ユース組織を活用し、活動の幅を広げる。
- ローバースカウトの定義を明瞭なものにするため、規程集、ローバースカウトハンドブックなどの書籍の改訂・出版を日本連盟に提言する。

E. RCJのミライ

RCJの活動があまり知られていない。加えて、その本来の目的についてローバースカウトたちの中で認知が低いという現状を踏まえて、以下のことを提案する。

- ユースフォーラムの報告会を参加者が開催する。その告知や報告をRCJから発信する。ユースフォーラムの報告会の内容は、今回の参加者たちが主催となり開催する。
- 「情報の発信、情報交換の場の提供」、「各活動の支援」というRCJの方向性を正しく理解してもらうために、ユースフォーラムの参加者が中心となって広報を行う。その際SNSを利用することが望ましい。
- 憲章とは別個にRCJの方向性について明確に記された文章を、日本連盟のホームページに掲載することを日本連盟に要請する。

F. ローバースカウト・コミュニティの創設に向けて

現在、ローバースカウトの自律が十分に達成されているとは言いがたい。そこで、我々はローバー・コミュニティによる活動を提起する。ローバー・コミュニティは、既存の隊・地域ベースの活動単位とは異なり、趣味・関心ベースの活動単位を指す。これを普及させることで、隊や地域を超えた幅広い人脈に基づいた、高度な専門性を有する活動を達成することが可能となり、自律の確立が促されると考えられる。

- RCJが、ローバースカウトが自分の趣味と関心を軸に仲間を集めることのできるプロセスを創設する。
- 日本連盟に対して、ローバースカウトハンドブックに掲載を求める活動例を提出する。活動例はローバー・コミュニティを基礎とする。
- 趣味・関心を軸に集まれるデータベースを創設する。そこには、大容量の掲示板が求められる。
- 日本連盟にローバースカウトハンドブックの活動例に、ローバー・コミュニティを活用したプランを盛りこむことを提言する。
- 日本連盟にデータベースの創設と普及を実現できるよう支援を要請する。

G. ユースフォーラム以後の活動について

ユースフォーラムの採択文が実行されない傾向がある。その上、中には実行されているにもかかわらず、その活動内容が見えにくい現状がある。

- ローバースカウト同士がつながることのできるネットワークづくりを進める。
- ローバースカウトは今回のユースフォーラムのアクションプランのそれぞれの達成度を様々な場で報告する。
- 次回ユースフォーラムまでに、ローバースカウトがアクションプラン全体の達成度合を評価する機会を2回設ける。
- 日本連盟には、それぞれの採択文の実行に必要なアドバイザー及びインストラクターの紹介の依頼を提言する。

※1 採択文、提言文の●マークは、ローバースカウト自らが主体的にアクションを起こす項目、■マークは、その活動を行うために県連盟もしくは日本連盟に対し支援を要請する項目（提言）と位置付ける。

※2 本採択文においてRCJとは、全国ローバースカウト会議を指すものとする。

※3 『日本連盟規程集』54頁以降に、「ローバースカウト」及び「ローバー」に関する規程があるため、採択文の表記はこれにならうものとする。